

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和3年11月25日（木） 14時45分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・ 県立高校の生徒を対象としたオンライン海外交流を実施します！
- ・ 中学生・高校生ビブリオバトル三重決戦2021を開催します
- ・ オリパラ教育推進指定校でオリンピック、日本代表選手による講演会や実技体験を行います

質疑事項

- ・ 愛知県弥富市立中学校の事件について
- ・ 県立高校入学試験願書のデジタル化について

発表項目

○県立高校の生徒を対象としたオンライン海外交流を実施します！

本日3点、ご説明させていただきます。

1点目が県立高校の生徒を対象としたオンラインの海外交流を実施するというものです。本県では高校生がグローバルな視野と志を持って、将来、世界でも地域でも活躍できる力を身に付けられるよう、短期海外研修の実施でありますとか、長期留学への支援、それから実践的に英語を使用できるセミナーの開催などに取り組んできました。

一方で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりまして、こうした海外研修や留学の実施が難しくなってきましたことから、令和2年度から各高校にICT機器の整備が進められていることなどから、本年度はオンラインを活用した国際交流を推進しているところです。このたび12月に、高校生とシンガポールの現地大学生がオンラインで交流をいたします。

交流内容としては、「13 SDGsの気候変動に具体的な対策を」「14 海の豊かさを守ろう」「15 陸の豊かさを守ろう」の3つのテーマから1つを選んで、グループで英語によるオンラインでのディスカッションを行います。参加者は、学校あるいは自宅から参加をいたします。シンガポールの現地大学生をファシリテーターとして、自ら選んだテーマについて、1グループ6名、大学生が1名、高校生5名でディスカッションを行うものです。

日時は令和3年12月13日と12月17日の2回に分けて、参加者60名を30名ずつに分けて実施をいたします。

参加者は県立高校生60名、それから、シンガポールのシンガポール国立大学をはじめ現地の大学生の方12名となっております。

加えて事前学習として、11月21日と12月7日に、積極的に会話を進めるためのスキル、それから、SDGsに関する基本的な知識を身に付けられるよう、参加者がオンラインで次の学習に取り組みます。1つ目が、外国人講師による英会話レッスン、2つ目が名古屋市立大学の准教授の方によるSDGsに関する講義と調べ学習、この2点について事前に学習をして、12月13日あるいは17日のオンラインによる海外交流に臨みます。

○中学生・高校生ビブリオバトル三重決戦2021を開催します

2点目が、中学生と高校生のビブリオバトル三重決戦2021を開催するというものです。

中学生、高校生がお気に入りの本を発表し、最も読みたい本を投票で決める書評合戦、「中学生ビブリオバトル三重決戦2021」「高校生ビブリオバトル三重決戦2021」を開催いたします。中学生大会は、今年度初めての開催となります。

ビブリオバトルですけれども、読んで面白かった本を1人5分間で発表し、参加者との簡単なディスカッションの後、参加者全員で一番読みたくなった本を選ぶ書評合戦であります。「本を通して人を知る・人を通して本を知る」ことができるコミュニケーションツールとしての側面を持っております。

今大会は、会場での観戦者だけでなく、Zoomによるオンライン観戦を実施し、オンラインの観戦者もディスカッション等に加わって、投票にも参加することができます。今年度初めての取組です。

12月11日に、中学生大会は10時から、高校生大会は14時から実施をいたします。場所は、三重県生涯学習センターの3階です。発表者は中学生大会が8人、高校生大会が12人でございます。

それから、大会終了後にも三重県のホームページの動画サイトと三重県のYouTubeチャンネルにて、大会当日の様子を動画配信する予定です。

○オリパラ教育推進指定校でオリンピック、日本代表選手による講演会や実技体験を行います

3点目が、オリパラ教育推進指定校で、オリンピック、日本代表選手による講演会や実技体験を行うというものです。

三重県教育委員会では、スポーツ庁の「オリンピック・パラリンピックムーブメント全国展開事業」を受託して、オリンピック・パラリンピック教育を推進しております。このオリパラ教育推進指定校6校に、県内出身のオリンピックや日本代表選手を中心とした方々を講師としてお招きし、講演や実技体験を行うものです。

オリンピック・パラリンピックを通じてスポーツの価値や効果を高めるということと、国際的な視野を持って世界の平和に向け貢献できる人材を育成するために行うものでございます。

それからオリンピック・パラリンピック教育推進指定校での実践として、1点目が、オリンピック・パラリンピックに関する知識、選手の体験・エピソード、大会を支える仕組み等について学ぶ。2点目が、オリンピック・パラリンピックを契機として、スポーツの価値、参加国・地域の文化・言語、共生社会、持続可能な社会、我が国・地域の伝統・課題等を学ぶということを実践いたします。

講演会等の詳細ですけれど、まず12月3日に津市立白塚小学校の5年生、6年生の方を対象に、野口みずきさんに行っていただきます。12月7日は津市立久居東中学校の3年生を対象に、ラグビー15人制の玉井希絵さんに行っていただきます。12月9日は同じく東員町立笹尾東小学校の6年生を対象に玉井希絵さんに行っていただきます。12月10日は、松阪市立豊地小学校4年生の方を対象に井谷俊介さん、この方は2019世界パラ陸上選手権100メートル8位、200メートル7位ということで、日本人で初めてこのクラスでの決勝に進出された方でございます。あと、12月15日は、松阪市立久保中学校1年生の方を対象に玉井希絵さんが、12月17日には、四日市市立保々小学校の5年生を対象に野口みずきさんがそれぞれ講演等を行っていただきます。

私からは以上です。よろしくお願いいたします。

発表項目に関する質疑

○県立高校の生徒を対象としたオンライン海外交流を実施します！

(質) 高校生のビブリオバトル以外は初めてなんですかね。

(答) オンライン海外交流会は初めてです。それから、オリパラの部分は、令和元年度から実施をしております。

(質) このオンライン海外交流は、30人が6グループに分かれるということなんですかね。

(答) そうですね。

(答 高校教育課長) 1日に6グループです。

(質) 今まで、国際交流を実際に会ったりとかそういうのはやってたんですかね。オンラインじゃなくて。

(答) そうですね。実際に留学促進事業ということで、長期で1名、2名の方に支援したり、あるいは、シンガポールへ三重県立高校生の海外研修旅行ということで、令和元年度まで10人ずつぐらい、毎年希望を募って、支援して行っていただいていたけれども、コロナでこういうことができなくなりましたので、オンラインで今回こういうことをさせていただくということです。

(質) ここに参加する高校生はもう決まってるんですね。

(答) そうですね。希望を募りまして、3番に書いてある高校から60名の方が参加をされます。

○中学生・高校生ビブリオバトル三重決戦2021を開催します

(質) このビブリオバトルの方も参加者は決まっているんですか。

(答) はい。参加者は決まっております。当日オンラインで観戦いただく方は、当日に申し込んでいただければ観戦していただくことは可能です。発表者は決まっております。

(質) それも希望ですか。

(答) そうですね。

(答 社会教育・文化財保護課長) 地域大会を5地域ですべて代表が2名ずつ決まりまして、それに参加できなかった方に対して予選会を開催したんですけど、そこでの代表が2名で、高校生が合計12名、そして中学生の方は申込制で、8名の申込があったということです。

○県立高校の生徒を対象としたオンライン海外交流を実施します！

(質) オンラインの海外交流ですが、これ、去年からICT機器の整備を進めていて、去年はオンライン交流はなく、今回初めてですかね。

(答) 今回始めてです。

(答 高校教育課長) こういう形では初めてです。各校で姉妹校があったり、授業の中で取り組んでいる学校はそれぞれありますけれども、県で取りまとめたというのは初めてです。

(質) 今回シンガポールの大学生ですが、シンガポールっていう理由は何があるんでしょうか。

(答) 時差もないということもありますし、先程申し上げましたように、今までシンガポールに対して、高校生が実際に海外研修旅行ということで、毎年10名程度行っていたということもありまして、オンラインについてもシンガポールにさせていただきました。

(質) これなぜ大学生なんですか。

(答 高校教育課長) ファシリテーターというか、少し議論をリードしてもらうためにということで、委託業者へそのような形で頼んでおります。

(答) 向こうの大学でも、日本語を専攻していたり、あるいは日本への留学を希望されている、そういった大学生に加わっていただくというふうに聞いています。

その他の項目に関する質疑

○愛知県弥富市立中学校の事件について

(質) 愛知県の中学校で生徒同士がナイフで死亡するという事件がありましたが、あの事件を受けて県教委で何か学校間で通達されたりだとか、また市教委でどのような動きがあるかとか把握されてたら教えていただければ。

(答) まず、将来ある生徒さんが、かけがえのない命が失われたということで、大変私としても痛ましい気持ちであります。それから、まず、なぜこうした事態に至ったかなどにつ

いて、今後状況把握がなされていくと思いますので、そのことをしっかり注視をしていきたいというふうに思っております。学校における子どもたちの安全安心というのは、最も重要で基本になる事柄ですので、三重県の小中学校、高等学校、特別支援学校全てにおいて、子どもたちの安全安心の確保、そのための、例えば様々な教育相談体制の整備ということに努めてきたわけですけれども、今後も小中学校でしたら市町教育委員会としっかり連携しながら、引き続き子どもたちの状況把握とか、丁寧に見守るということをしかりやってきたいというふうに思っております。

(質) 特段何か今回の特別な動きをされたとか、そういうことは特にはないですか。

(答) 今のところ、事柄について、いろんな背景があるのかもわかりませんが、どういった状況かというのこれから把握されると思いますので、まずそのことをしっかり注視していきたいと思っておりますし、その上で、さらに三重県としても対応すべきという具体的なことがあれば、さらに対応はしっかりしていきたいと思っておりますけれども、まず状況をしかり見守ってきたいというふうに思っております。

○県立高校入学試験願書のデジタル化について

(質) 来年度の当初予算に関わる部分かもしれないんですけども、県の、以前言っていた経営方針のようなものの中に、高校入試の入学願書のデジタル化をしますっていうような話が出ていたんですけども、これは何かもうすでに来年度予算に計上していたりとか、計上する予定だったりとか、そういう見通しがあるんでしょうか。

(答) 今、要求をしているところですけども、県立高校の入試について、志願書というのがございます。志願をされる中学生が、希望する高等学校へ紙の所定の様式に書いて提出するというようになっております。その部分について、提出した後、当該高等学校でデータにするために入力したりすることでありまして、あるいは中学生が書いた場合も、修正とかいろんなことが生じるということがありますので、そういった中学生の利便性の向上であったり、それからデジタル化を願書の段階からできれば、中学・高校での効率的な事務の執行にも繋がるということがあるというふうに考えておまして、予算はこれからですけども、そういったことを検討課題として持っていて、今、そういった方向を検討しているというところです。

(質) あくまで来年度当初予算に予算要求するような形になる。

(答) そうですね。そういうふうに思っております。

(質) 一部学校で始められたらという感じですか。

(答) 一部というか、もし可能であれば、一部ですとややこしいですので、三重県立高等学校に願書を出す部分について、デジタル化ができないかというふうに思っております。

(質) まだあくまで予算通らないと判断できない。

(答) そうですね。

(質) デジタル化って他府県も進んでいるんですか。

(答) 大学はご存知のように進んでいますけれども、公立高校の部分についてはほとんどないです。

(答 高校教育課長) 私立では始まっているところがあるんですけども、県立に関しては、研究を始めたり、実際やろうとしているという、(三重県と) 同じような感じというか。

(質) じゃあやっているとところはまだ公立高校ではないということですか。

(答 高校教育課長) 次の入試でされるところがあるかなということちょっと聞かせてもらっていますけれど。

(答) 高校の側でも、そういったデジタル化された志願書を受けとめられるシステムがないと成り立たないというか、うまくいきませんので、三重県はそれが数年前に整備されて、そういうところがあるところでないとなかなか全体のデジタル化にならないということです、なかなか全国的にはなされているところについて、現時点では把握できていないという状況です。

以上、15時05分終了